## 春 在 堂 襍

太史 春在堂碟文六編 笠山 公言富貴而 號後 官定 遇有奇跡有奇藝 山人 詩 陽時 非常之 序 見にこいるり 見之矣山 於 流 卷 陽春 儿 浪 世 江 滅 劉慕 人能 湖開遂 後 恆有荷有 可 也姓趙 德清 倜儻 笠形 惟 笠 俞 製奇 非常之 氏名 杝 則必有 非常之 光祖 進

蓮 難 山 世 門 官 稱 オスナ新 其 陷 蜀 盡 之 麎 山 式 中 赐 青 輿 羅 莜 獄 獄成 計 鐗 進 炁孛之 遣 風 定 最 趨 德 戍 易 房翼奉 經 行 旋 氣 八 惠 凷 無 旗而 之易 政 卷 無 桐 何 從 俄 胰 風 奉 術 征 於 蜀 虚 中

鏻 前 宗道 創字母 14 旬 以意 所 拨 四 十字 及是 作 排水 國 明 以其餘 康萬 開 作文工工編化 山 刊 貿 蒯 此 王. 问 智爲 -<del>[</del>]. 起 民所 延 討 七干九百 秀 址 叉 德四何皆於三 日蹉 官业 一切字之新 酒令 削字 島野 · 切東 **退**其 纠 驼 亦 THE PROPERTY OF THE PARTY OF TH 五十 削 迥 有 助奇 詑 風 蘇 別 刎 十六字母 八首 破 慨 趣 矣蘇 復 我鬢霜 叉 也 早梅四 精於音 山 四庫企 一亦必 邁璇 所 何 外 生 自 桑 韻 書 作  $\mathcal{H}$ 琰 著 特 紹

能 非 常 鬚 代 園 曾 爲 矣 閒 也 所 宁 偉 同 以 꿰 氽 旫 爽 亦 詩 定 抒 跡 寫 以 餘 周 付 山 不 人 丽 鹏 徧 泚 性 氽 梓 ۲ 有 情 志 復 刪 氽 初 フィル 羊 鳥 流 定 (l) 不 所 連 也 城 能 氽 相 未 令 報 識 而 刪 青 背 承 游 至 僭 山 者 人之 云 獨 模 誦 惠 歐陽 盛 詩 顧草 端 所 範 京 哉 以 衚 山 四 湖 往 及 副 非 水 堂 肸 浙 年 其 以 他 江 氲 李 藏 斒 風 求

舊蹟名人 **軼事可采錄者又量少哉枌園楊君自少刻苦自厲** 卷 籍門以優行貢成均光緒初叉以孝廉 **耆獨**也所**著傳甚多**而東城記餘二卷則 山 然然有懷古之思厲樊樹先生所著東城礁 林掌政者不能廢也然先生自序謙言見 領土游展所經寓廬所寄往往在馬經院 **肺全書智錄敘述典雅考核詳明雖偏隅** 尚將有待况自先生至今百有餘年 遺 徴 团

質 以鈔本寄示擬 徒 其 飹 流 曹 果 敘 摵 師 則 典 源 行 地 寺 麻 流 一記事 於 此 朝 國 兒 敷若 歐羅 升前 神所 也里牙之 刻 同 方會覺 稝 人 而 其奉 云 稱 武 其 判十字以定 方 也 異說 名 碑 路 地薛迷思賢在 鹽 旨 遠近 加 迹 Ł 車 德 典 於 亚 IE 可温 乞 余 復 四方者 泰 爲 歐 相 之 方 例 之序 羅 修 原 絶

浦, 日 材 之請序君 庶常 也余忝主講席 未得與君相見而君之子曰派生 **樊榭之書竟未之及此** 多自九通 國家重 谷 至元十八年亦杭 舉也 四 行省皆散局 不集文片編化 通考輯要 開 此書并物早刻之 告成遂為書局 然通典二百 四庫館 序 刊刻書籍而 必 郡 一年幸有一 卷通志二百 有 亦見楊 與樊榭書 取於是書矣 鉅 觀流 吾浙局 日之 拾遺補 Ц 卷通 布 所 知 海 刻 闪 孩 所 因

百 通 通 川 而 考得 斯寒 爲 倍 八 通 卷 削 濵 通 則 已極 Ž 包 昌 薙 四 乎况 思 博 黎不云 亦 Ź 通 能購 之 學詳說 夥 夠 推之 日馬 頒 尸 叉 ノイ 有 附 包 况 卽 乎紀 有之 見及 以明 盆 氏 通考踵 反於 以 通 亦英 事者 通無] 此者 吾 說 本 杜 不肯 然 約必有道美湯 能 但 必提其要纂言 折 朝 四通 卒讀 鄭 所續 胼 取之四通 而成書 然是故 檳 1 考體 者 有望洋 及 爲 朝 向

序則其書之精審可 三千足 為之精騎宏通之士必從此出矣余衰且老 統 眼猶及見之也 撮成書曰精 戴籍極博自昔病之以十二通之浩無津厓成書曰精騎集後呂東萊亦有此作朱子不 通或猶能讀君 貒 敞君羸卒數萬泰少游取其語朵經傳 凡如干卷求序於余余雖未見其書 序 練文大編九ー 知也齊孫搴靜那 홹 Ī 仰云我 然觀其 四 通

视 藝 定 謂 數 材 意善乎 求 幾 殿 蔚起書 數故六書 爲 以書 乎家能 皆 近 网 學 數六書 能 水 數兩學 亭 爲 麽 亦 所 邚 心必守 懸言 際 微有 焦 瀨 謂 而 立 理 超 踰前 堂 數 異六書 之 天元 洨 饑若 義 圳 之 古 長 矣; 荷 所 示 於立天 有 近 <del></del> 網壁虛 誻 駝 重 及 也 學 掌 今數十 嘉 大 Ü · 則宜 定之 數學可云 衍求一之 我 造 來 形 張古 年 馬 朝 聲 頭 則

沈之思及得數學之計則大喜日人以爲艱深予 兩不等員內 咸潮勿習 學深思者自得之耳武進 M 而得者法 穖 可謂 人以為 等員 法 新 就 推 而 得者 **抑是止** 不聽竟以此天其年所業亦未竟然 幽眇予以為明快予必學之父兄以 固辦化黃玉 陳 相切之 相切之角與相交之 出辦者矣 因法 解 角與相交之月牙角各以圖 不如是止也然則數學 巾 一屏容員七 得者 乃近人有議改孔鄭軒 蔣君岳莊自幼即好 如是解如是也 術 內 而悟雙曲 外角橢 圓

年六 是 盒 亦 負 孫 術 非 氏 也 荷 帖詩 鉅 莊 樂

健

積

法 爲 族 粗 我 張 也 悲 序 習 異 豕 沓 乾 华 漁 朝 之 ng 华 者 書 隆 哉 鳩 精 E 八 呼其 其 數 則 閒 賜 弟 叉 主 學者黃宗羲年 通 一 
今 
猶 力 業 竹 韶 雌 莊 水 雕 攻 何 遺 良 竹 其 未 青 誤 文 其 竟 汀年 足序君之書 學 早 其 撰 山 上 學固 逝 隄 孫 以 氏 有成 其遺 所 術 姑 閰 進 孰 辨 特

鮑 盦 必 試 Z 園 試 試 斌 帖 散 者 帖 佳 氏 郊 帖 帖附見示余 原侯茂オ乃 則 錄 未 其 無 裥 者 以 昆 必 爲 茣 古 有 氣 生代 アンニアヨリ 伸 詩 序 惟 文 不 猶 飛 動意 爲 孜 奥 綃 I 時 隵 榖 詂 孜 也 詂 悠 文 萷 丽 u 悠 其 数日 渁 文譜之 能 此 康侯 時 島 睛 長 寪 是 文 葢 呼 諭 繑 詩 必 耆 先 IJ 試 又 計 欲 時文為 住 帖 廢 矣 為 其 之 固 丽 į 人也嘗 一澤遠矣 勝 有 近 弟 討 試 文 時 丱 帖 且 刊 盦 杭 謂 則 廢 能

動 中 無 文 文 謂 2 名 必 君 鄊 思 當 我 故 吳下高才生 加 精 鮑 亦 破 间 壁 疾 精 利 一派去 堂 图 孫 1 プラ科 力 為 也 Z 爭 思 集其 余言 氽 也 殧 邈 孰 也余從前主 與 之 近 用 杰 翔 力 年水 F 君 加 長 之 君 在再數 外 於 既不 而去 间 喻嘉言 醫 屢 居 馬 其 講 醫 得 酌 滿 Section of the section of the section of 醫 猵 徐 年竟以 志 及有 自 陽 科 出 靈 運 胎 巷 維 ihj 諸 冶 間 衡 司 矜 家 靈 相 則

運 氏 世 加 M 皋 氽 司丞是運 然考 不詳 精 原 冒 囚 醫理 氏 於 取 响 文余 只哥海涯遂以貫為氏 潛 之 叢 語 肵 M 上一集七二名 史 出 書 眥 觀 孝先生墓 丞 之 或云 雕 因笑 傅 之 括 卽 序 簡 舌 為 無 於其中 調 敝 昌氏 所 殷王子期 M 明約 칾 見 君 圃 始 殷 不 不 但 L E 而精 加愚 胪 君與史 能 獨見君之精於 <u>-</u> 封 給 亦 姢 有一 按 未 擬 於 旭 刻 斯 樂 元 致 神 條 祭 陽 爲 高才生 史小雲石 陽 爲 1 過數 闘 編 却 元兩 也韓 也 也 推鹽 海 行 足 鄕 涯 因

文章氣 載 **鶴年之** 有聞 、蒜廬 節 藤 集有高 惟 負海 戾 先生 姓 J 朽 矣 刑 Ŧ 疑 內 所言當得其質自冒氏與遂為 徒 えご 知泉 來後 生 重名 藝文志有丁鶴年 **确年傳言其** 肵 人自有 ブ 先 民先 九 丽 珠碎玉 輝 不 述 J 映雖 知 詩文世 生 JL 得姓. 不可 知 其一門鼎盛籍笏傳 爲 曾 稲 王謝崔盧 明季四公子之 而弗傳是不仁 收拾嗟乎 閒 海 之一法 阿老丁 尚有 巢集是 **孤苦** 固 冒 氏葢 加 卽 皋 以 思

氏之 其後 明 厥子筱珊先 名亦且以著 歌 秀 不敢 其 厯 侧 詠 非偶 也其曾王父们蘭先生 其事以為美談是又冒氏 樹 遏佚前人之光乃裒集冒 个碟文六編九 然 此 於 生復罕乳 九年三 吟草 非酸 此 世 而乞余一言序 明不仁之咎乎鶴 月十 齋貴氏海巢丁 序 也成吾知昌氏之 源竟得 **耳而鶴亭亦以三** 别 賊而置之法 廣東乳 之間巢民先 氏 亭孝 盛事也鶴亭 所得而 族日以 廉 源 凡 岩 時

望而 宋喜東坡 能 獲親 웼 一
央
毎 字雲 买 | 而猶 臘 於 成家 孟 尾年頭 其風 葆三 若絲 於臘 及見葆三 徑中 不 楊誠 愧古 杉 數 鼓 野 別 先生亦 字生 之 屋 才思 其 作者 集若 伯 銷 即 將 晚年詩格又 平最喜為詩清微淡 寒餞歲之計 唱 健拔又非王 徐氏一詩人也先 天藻 余生也 一切俗 樓集若 雅 事辦 晚 於 後 勿使催 代有 諸老 苔雲 並 兩

嗣 粵 也所著 牁 能 君 棄生 、販之難事家 資齋週 八十讀君遊康追念舊游不勝黃爐之感 浮家寇 皆吾鄉 誠 顯 **齋如陳香嚴墓木已拱余亦老病入此** 以名孝廉 日花 刻序 去 世 我春在堂以青一 人也合而刻之可乎余發而 きたころ同し 則閉門兒何輩簾上 樹 屬余以 辟 **斬吟草卷轰甚富未及壽之梨** 秉鐸 地 數 言張之憶從前 松陽亦精然老矣懼遺 百里內不遑 **衮見示日 銼閒未嘗** 與君 視之一為 此忠臣孝 矣 酬 詩 棗 唱 至 目 訪

鵜 居 亦 年 囓 何 謂 鶴年 集 非元之忠臣哉杜 必 第 舊 11 非 揆 為 歧而二之 都 骨 附 孝 Z 以求 者 宜 舊 周 杜茶村 見明史 でランカ 國 卽 澒 實 殷義 嵇 題 其 之思讀 他 忠 戴 集 生 奫 孝 茶 欲 兩 之 母之遺 君 良 傳母 ナ 背 圖 葢以丁 合 先 例 集 村 141 生 人之 文 謂 以 前明 以 骸 死 原 Ž 自 刻 為孝 、鹽酪 大節 日忠亦無不 埘 誠孝子矣 本忠孝發爲詩 該 副貢 無遺像終 + 歟君曰是 律其 而本 不 而 入 入口 杜 志 爲 绺 於 忠也 身 者 可見 人之 固 可 國 痛 朝 家 五 文 變 惧 世 年 氽

平於明代然實元之遺民也乃言於有司改題其墓 秀民先生嘗於武昌寒溪寺後得 **兀忠臣孝子丁鶴年之墓嗚呼先生之見與余所論** 晚年謂寶齋日汝必成吾志此汪氏刻丁集之權 鶴年之臺喟然日鶴年 秀民先生之兄彜仲先生 拳拳於 **嗜其詩與文以變** 而合矣先生欲訪求鶴年詩集而刻之而寬不 / 進大しい 三明 此 **兩集則固承先志也先是** 雅堂集世鮮傳本 L 誠孝子然其忠不 則又深敬杜茶村之為 墓碑題日 乃重刻之 資齋之 可沒也 明孝子 先他 可

鶴 也 嚴 載 版 Sharing the contract of the best of the particular the contract of the contrac 月既久又經 、兄其表兄詩若 寶齋 茶村 圈 校 / 燼が 也 點其首有茶 海巢 利利 詩 此 兩先 則 補 舉誠善矣 是寶齋又謀重刻之且 東道 村集 及媒 生 兵燹不特丁集赤 日哀思日方 オール・サナ 一集合 夘 村自題 干 詂 肖 丁鶴 刻夫表揚前哲仁 四 庫 名 與閣本 數語 目則 年集 不錄 外 回 未 殆本其原刻然 續 同 刻 此 合 刻 未 卽 集 卷四庫著錄 知 閣本 杜 變雅堂 知 與閣本異 而 也 集之已 爲 之 有 紹 集 述 無 爲 借

一鶴年之 供其祭寶 鹿苹太守權知江 墓得秀民先生表章之 因 吾伯父於泉下矣於是亟欲刻此兩集而 江甯梅花 風高 以其崖 又如 濟與鹿苹鄉 數十年之外刻成此 節 起げて 略 村者猶 此嗚呼是 足以與起百世者有如此 們复 家 如此使 から 評記 求得之立碑以表其阡 煙 也亦世好也聞之而 泯 人讀之知兩先 既已 附錄亦 於崩榛荒葛之中今年 ţ 兩集合而 大顯於世而 可 + 而 生 備 谐 矣 然 喜 問 忠 序

慧寺志序 非以東坡先生之詩 屢 披詩亦為之生 オンプメガナ 所在有之代 次 經 跡 虎 浙 鸊 跑 波 地 有此 山水 銵 相 色 貧 童寺亦有之 州五臺山太平與國 同 名 而定慧寺遂 便 因名虎跑泉宋朱弁 耐 蕃 我 而廣州東芫縣 杭 州定慧寺之虎 朝 此 康 熙乾 為 外 湖 如滁 跑 曲

拽遺 亂 志 惕 逮 有 庵 志 建置 版製印本亦希丁君松生歷 照 甫太守娶於 重追 四 河矣 缺成 卷今乃倍之其 序 两 山水藝文金石志書所 闸 其意書班應之 定慧寺志 集でに帰し 為之 持斯寺懼名蹟之就淹借遺聞之莫 序品 聯 平孫 八卷 照止 用力 此志順 上 勒矣其用心遠矣本 述 應有者無一不 年搜訪僅得其半 國文靖公之從 不讓本然 **宸思下速寺產** 康侯茂才 14. ilte 序

則未 孫故 自 同 年 嗣 嗣 余家 迎題 之兄 與相 來相 のでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmの 卒時泣而言日吾家自文靖公有百二 也以其兄惕庵詩 習也今年夏有王君茶君來見乃吾孫陛 與孫氏有連文靖公之孫為古雲襲伯 其所娶婦 場大使候選屢應 其續娶婦孫氏云去文靖公五世而其世 齡字壽伯曾信順天府治中後改官兩 ラネ 斯 承不替吾自幼卽喜為詩與吾姊吾 滸 ニンネノ 許 卷 氏 亦附 則吾 求序惕魔名存辦廪貢 鄉試抱 焉 孫婦之從 九 **畹**致 青 於 吾 **才不遇而卒年** 挺孫女也 准

詩中有極雄渾者即纖悉 **赤之見也余從孫婦之請曹數語以升之 今吾夫亡而遺言猶在敢求吾雅始於問膳之下爲代** 姚个之 言乎余因讀惕庵詩古體詩似從魏晉入手近 詩神韻俱淸無塵坌語溷其筆端此兩伉儷者 不多清閘逸蘭亦復可誦而又言 用戴復古之例載其父東鼻子詩於前乎余 爲則不 一詩人矣叉附其姊孫存英及侍 **俞曲圈一序以表襮之庶幾不泯** 知用黃山谷集之例附其父伐檀 小題亦有寓意不涉佻 其翁其 姫丁鳳儀 太 翁 됍

黄菊友思代帝王年表序 之孫氏存其詩井存其人 史弘因之 表之與 代以下事變盆繁或南北區分或正閏迭起視太史 自 為表與史配上及三代者不同體固宜然 幼時見楊州阮氏刻有魅代年表一書兵燹之 尚有存焉對古余史學粗疏乙部之書亦多未 ()尙矣| 而 討 作十表制後史象亦多循用然代自為 侯為大國者更不易稍考則尤不可 三代表系勞行斜上卽年表之權 也 惟

統 則 迄 南 自 固 表 遼 捷 朝北 啊 法 卷 日 朝 秀 也 畑 元 僭 來 年 岩 竊 乃今讀 之 周 人 論 地 表 葉 穕文木編九 網 國 之 \_\_\_\_ 年 葢 氏 在 爲 國 世 道 維 餘 所表者 表 綱 菊 有 南 某 岩 天 年 庚 日 鋮 紀 郡某 鰷 友 世 和 諸掌 大令 皆 元通 系 矣 雞 德 余 國 वि 布 分 讀 考 之颁 流覽 腁 霸 迄 列 內 燦 褙 時 南 史 得 之 網 厯 此 載 在 代 軅 通 朝 分 國 放 洵 年 如 而 宋 紀 時 正 年 武 統 統 紀 鉤

邑 如 垂 而 建 學之甚 年 亂 容詳建 此 與元年據本紀及 爲 兩號今皆系之太元元年亦似小誤葢 以吏治見 無不 竊諸 虞 顶 加元 深也 燕 舜 稱為 尤甚不足為 元 年號六百 年據本紀 載 惟 長矣末附 循良 於 此 所未 夏 一之東 載 零五 后杼十六年 乃晉安帝之隆安元年慕 詳 記乃孝武帝之太元 全書之累也君宰吾邑有 元目 乃上學之深 恐是警校之 以首一 錄歌 和 字 附載竹書 爲 合 ~偶疏 明 如 正 十六國 得 鬯 紀年 如得 此 統 叉 知 如 燕 年 年

間鳳 不合 適 於學古禮固有然 讀 · 制 邪 余 晩 年 唐虞有夔 見余史學之 則否鄭康成釋之 审 也然則今之 禮記文王世子之篇 鄉賢龢序 鳴 至詳至慎屢 撕致鴻 龍伯夷周有周公魯有孔子則各自奠 / min 1 + 4 = 1 粗疏矣 得見此書爲之歎絶率書 所謂 矣 翔竟是絶妙好詞 日國 降 鄉 無 賢卽古之所 韶 國 凡 書必實係品 朝典制詳 . 聖 釋奠者 先 師 凡 則當 必有合爲 將急就諸 明 謂國故其 数語 尤重配 行端方學問 與鄰 而歸 典 得 有 國 沁 國

į

純 堂 蔚 洞 府 硤 州 起 者 研 請 甯 漢以 對峙 籍 也 准 巡 同 <del></del> 兵居 題 時 撫 癖嗜 已 **八祖文大雄** 古 請 奏 來 Ź 齏 歿 光精 家 官 雄黃 金 至 俞 代有聞 名 允 以孝友 縣 石 灣 海 尤以 Ħ 馆 元升 十年後 內 年 石 涧 カ 源慶道 文學擅 墩 為 而浙 稱其居 連綿 經 葢 州 禮 其 例 江 光閒 官 弟 名 巡 之 部 賴 本 撫 朝 勝 嚴 以 大 於時嘗官 叉 典爾 廉 濱 奏準 子推 因之其地 以 能著 海 四 奥 重矣 祥 入 省 林 圓 礼 鄉 鄉 杭

此書豈非錫類之孝乎其中如顧公歡褚公無量許 子頌以先德崇祀鄉賢臚舉本邑先賢詳加稽考以 而辭爰受而讀之歎日詩不云乎孝子不匱永錫爾 羽叉與余孫陛雲馬 則辨諸 固 少不 昭 在 Z **那若存而若亡矣其書** 画 人耳目此外了: 小腦者以 同年且嘗從余游余 酉 同年

懕 後 年 戡 德 斟 據 詳 鎓 黵 頋 余瞢 前 押 遺 之澤從 顧 事 自 讀 省 越 則 可依 若 蔣 統 初 4 盆 禀若 志 誦 據 豕 從 而 爲 清 岩 海宵 考獻 劉 乾 政 薬文祭若 之 隆 嗋 璣若 之中有與 暇 鄉賢祠中 志 間 見杭 加 蕭文 欽定 蘇 能 補 (聖肖 佚 齳 繼 絶 緆

張騫其文凡數百言葢古 乃今得讀其季子楚寶觀察所輯竹居先德錄於 **静與其妣之姓氏而其先世之** 詳敘其先世 日張氏之所積厚矣非子不云乎水之積也 一余嘗爲又堂張公作神道 所積之 無力風之積也不厚則其負大翼也 巣とた場化 一以明淵源之有自固漢以 其篤生又堂 人欲稱述其人之有德善憅 令德不及詳齡以爲 碑文 Ŀ 載其三 大 來金石家

嗚呼所見遠矣次子卽叉堂先生也先生毋吳夫 衣 其次子廢 齋先生爲 柳傲 溢 李 夫 方正 職人周下執役人立足痺至不能行冬日指 口不言疲吞堂上必以精鑿已則碾麧屑菽以爲 水災 敗 一徴未及 輸自 儒書 之父以吴太夫 補綴幾滿 人即合肥李文忠之妹賢婦也 何異馬叉附載先生妻李夫 ラネ 金 一・デーライオ 賴略日天下將亂非此無 召試而卒 而惟好施與遇災必振光豬 詔以樂善好施旌其門夫 人為之母則有又 先生在時粵寇未起

之後且 為定 而其作戴亭張 1矣或曰: 明宋景濂爲 其貌不察其形葢遠而 余謂不然孔子曰聽遠者聞其 力斥譜 也 姓張氏何其說之矛盾 人也 旣以先德名錄而所錄者 卽 加張遷表所載張良則韓 一張騫則漢中人也宗系不 氏 牒家少昊第五子 、譜圖 張 **氏**譜 記則又云青陽氏第五子 **周序郎明其為晉大夫張** 無徵不如近之有據 期錄亦可 場姓 疾不聞其舒 止其加岩 计 爲張之不足 無稽固 為善逃 同 父

則 信 生 爲 兩 神 A PROPERTY OF THE PROPERTY OF 美 節 鏼 道 異 叉 序 署 懿 日刻 能 袑 碑之未備 此錄善而有 特 也 i( 可 信 頒 入春在堂襟文第六編亦所以 年合肥 賢毋 謂賢母者 敟 ラ 諭 也 徴余 思子 相 旨 有 生 國文忠公之母李太夫 都督 賢 放樂 賢毋之褒誠 女 而賢女又克成為 一局者 叉堂張公之 相國交忠公女弟 為序之 雖善無徵 Ī 朝之 赧 補 德 配 貿 遇 略 毋

難馬 產長男桐 延 館書宿教督諸子皆 居家治家 謂 其後都督公 侍 可謂賢 1妹信 一艘之 賢母 御公官京師諸 乳汁 事 ATTIC . 乎都 女矣及歸張氏君舅有疾不能 八人亦不可 丈夫 撫 温 出從軍旅夫 燖 4、11月 督在軍中有 **视其三弟** 風機矣 進葢視 受請至 日婦 子或随侍或 人 一妹使父 一再辭益: 酒夫 以教了為第 人主 部將館千金 持 一世不 峻 升堂乳姑 門戶節縮 文忠公 義鳴 受

程 興 哀 典 序之 傳中於 事 萘伯喈近 夔孝 集 三至於今日崇 先 也 夫 廉選 使 逐 /家 李太 有 錄並 夫 オス大新 則 雅序 也所采 傳嘉表等 有令子楚寶 餘種求之馬 賢 夫 傳余旣爲 行信 上學 **璞**韋昭 用之 後必并傳李夫 於 綴 Ű 今 先 氏 一兩漢 自撰 自 叉 德 經藉考存者已 而傳於 錄序故 其所載舊注遠 經史以 旣 行略 為 後 竹 無疑 異 篇 此 時 一錄亦 矣 德錄 題 過 則 國

說雅然皆限於一家之學未若此書之皋宇萬有也余 養一以資譯學譯學非余所敢知古義則余所篤好近 類比門成選雅一書其用力勤矣讀其自序一以存古 從事選學歷有歲年刺取李注用預雅十九篇之例以 **敢焉言水声言古義如慧** 取焉言小學者取焉非徒 詞章之韓 青而寸珍尺寶往往有得况李氏 而李注 集女六漏れ 則包羅 琳元應一切經音義皆姓 詞章家視為潭奥而已 奉籍羽翼六藝言經 北 注乎程君 過總 近

此 譠 即 即 恋矣 作 謝 生 沓 宣遠之詠張子房皆五言占 詠 詠 觀 雅 古 察遙集集 楚芸信 因 Z 與於是 循未果今老耄廢學不 世 1 鄭 然 奥至 繭 君 朝以前 山甫 一昭明 田 蹟憑弔與七凌凌乎近 未 禮之記 選 誻 有近 篇 詩而蘇史遂自 能卒成讀 體 體故曹 爾 自唐以後 體 建之 爲

吹所錄皆唐 旦 元方回著源奎律髓於 、翰林 為時所重簿領餘暇 余讀而喜之憶童時侍先大夫夏 於近體中專選七言者也許豫生觀察以 邊 集ない 取顏延之望古遙集之義命之 於明代諸家詠古七言律得五百九 人七言律詩九 近 而外膺方面之寄宦游吾浙 體不選古體者也金元好問著店 槅 L 唐宋人詩選五七言 不廢喇歌用 九十六家得五百 遺 日遙集

起 訶 章 嚴 毎 誇 筝 收 姚 誦 詠 前 スランスを 婦 於 鐡 師 到 褊 抑 詠 宣言 遺 孝 閣 云 思 空 程 謝 K 博 誹 前 討 該 文 澒 大 詩 也 海 傅云 跨 禁 佳 北 朱翁子 椎 蓝 郭 可 竈 作 諑 網 句 初 予青 觀 訪 漢 脦 花 如 察 寬 江 龙 云 諑 帝云 此 到 是 詢 祉 殘 南 集 資 非 燈 庾 辦 棋 求 回 Ti 容 兒 破 仙 聣 憶 捉 西 敵 誻 材 老 燈 如 變 佛 前

過 支為諸陽之本也斯文也余嘗讀而疑之疔之名至 無疗字集韻始有之古字止作丁也素 王書伯疔窠要序 口高粱之變足生大丁王冰注目所以丁生於足者 所生之處亦不 獨寫是在善讀者 **痤疿下文云乃生大僂耳說詳** 竊疑 則此 崩則來薬 此足字為是字之誤是生大 、集にた局 也謂之發思古之 如其說則手亦四支也何獨 亦無不可威不絶於余心溯 幽情也可謂 問生 三 '猶上文 通

沿之 雅 初 膏粱之 他 明益諸疔之生 所著治疗巢要求序葢君皆於右食指生米知其能醫也今年君來權知吾邑辱以 其指 **宁矣過君玉書宦游吾浙多年余夙與有** 雖愈 オ 日のからは 変化するのは 大学 大学 大学 ないのかない 之 人內 受 又 廢 述 而 护脚 一背由 善治疗間 正之 也博考改 不可找 氣或恣食煎炙 於 是 业<u>君</u>皆於右人 籍 於 故 此指寬廢 《時三折 肱為三獨獨求 秘方治士 目 是生生 內變爲了 已而 之 中

3

百過之 所 無 臣意但傳 編以行於世 刻之 不曲盡其 且 尚有外科 君 本惠之所及遠矣君幸吾邑雖不 集文な開れ 不獨以醫傳而醫亦足以傳君: 旨視永樂大典中所載救急 日方伎循冥並有專傳卽於 **庁**并癰疽亦治 L 西省 得錄因貯之為患尤險且 來印數干部以去 馬艦君固精 仙

固 頫 佐 訓 雖古普盛 和親安平 甯 遊 除天下之 愚謂 令甲矣吾 道 為 地 地 見錄序 時 爲 **惠**青土地 **愚誦訓掌道** 慝其在小行 不能使天下風俗 書可 日悖遊暴亂作愿推犯 寫 知風 涉 郡者十 有縣丞同 俗美惡皆有記載 人之職 目 州 瀢 四 一分為 距省 俗政 地 惡

言則以魑魅罔下 十九年始受代 以魑魅罔兩待其民矣 雅負吏 丽 歸紀其耳目 鼎神禹之采擇 所 及日佐宵 둞 余日

後 文婧 酉 十七七 之官 **尤同年之人傑也余** 瀕 公 螁 斯土 致長為悖逆暴亂作懸猶犯令此方之慝掃而除之以臻於康 詩集序 年 誻 歲 縣固 內登臺閣 公例得 者 在 7 不足與於 幾而公之名位 稱 酉 者 同年 氽 指 初 初 作懸猶犯令之民是所 不 不 生 應 殷頫之 與公 鄉 勝 是 屈 科 尴 識至 而吉 人材 厠 名 上庚戌歳人 樂和 林 副榜 頗 盛龍驤鳳 相 國文 親 馴 安平 氽

去而公亦旋歸道 余言 申歲公子東甫侍即裒集公詩 節門也乃公則猶念及之故其題趙忠節遺 乗雕 漢鳳鸞猶未忘鷄鶴 爲證猶子月汀官 正揆席余則自中州 有琴星之誼 表と 五十餘 山序固未 さ嗣 篇刻 江 已隔雲泥之 L 同季 蘇 其端余與公旣忝附 板 又寄聲存問命作詩 及作詩亦未之見光 京師 爲十一 之舊平然月汀 杜 門 又七年 不出 分周未敢以 一卷叉稱遺 まつ

謂 翰 心情 也 和 聲 鳩 世篇 者不 徒 盛省 與 見公之詩 得 皋夔之 粱 其 然 珠 而 孫 ラブ制 零 笛 濁 氽 亦 清 稱調詩 良 繩 云 鹊 之也詩之 直 以 與 佐 矣余 司空詩品 有詩 叉 恭 秀在骨 即 又何辭爲夫公生 戊戌 心 亦有詩 歌 疑 醇 年 若綺麗 邸 固 者 相倡 宜 同

寒島 公 Ż 修行 然 宇 痩 則 佛 講 之 降 公 少 軍 見公之 躯 比 生 時 心五六歲 固眞靈位 塵 亦 往往 此 在 世語 非 集女上漏 爲 人也公嘗 四 種 唐之 後 傳奇序 夢 猢 時其 紫 世 雖 海 游異境 知言否 中 膊 州 無稽 上 官體 人宜 張 公 詩 德 也 而 膺 西 而 公 其詩之 宋之 箕 耶 者告并 之生 仙降 授以 律文正之言以 西 À. 崑 有 雏 金 自 清 體 百 叉 剛 東 所 來 骨 同 謂 經 崩 背 則 公 自 儒 同 固 諷 衠

關 此 也 傳 雅 州 史 四 -书 是 種 所 (轉者 節 美 潜詩 稿 余 可 年 種 而 頗得 矣 本 請 拍 秋 所 皆 過 余 占 酒 訶 觀 天 大 錢君 Ž 元 極 爲 泦 沈 見示余 ブラスオーブ 此 鰄 北 人 霾 霖 則 動至 以 梅 於 外 播平杭州吳 雨 + 眛 洪 爲 稙 湄 披 其 **视**李 序而 種來問 四種 悼 澤 沭 觀 詞 之 陽 Ę 湖 旣不 雖傳 礫中 歸 笠 溢女史所居 則不以 其 滃 距 之 浙 餘 述 不 闆 可 **塗澤** 舊事 可復 日 女 絶 風 曲オ 史 則 在 速 得其 致之 此 為 倘 而 圮 雅 家 有 時 中 氣 於 3

清本以成全璧尤余與吳楊雨 矣女史胸中如有記事珠 本橋口誠軒詩序 任核譬之 凡百數十家名東瀛詩選 昭明文選例也 應東瀛詩人 一役時古 有餘 之 聉 方權 詩亦入 之請博 惜 嗣 是以 能將湮沒之十四種重寫 其傳婁 西 知龍游傳書旁午丹鉛 選 選其國人之 渠已作占 君所欣望也 馬蓋 得詩五千餘首釐 後凡東國之能詩 縣楊古甌大令 用 人不 令 狐

機 之 Z 又次 律詩 類 **再域往往見我於春在堂已亥之秋有本** 無聲牙之語信乎其為東國詩人也誠軒當 絧 叉各體皆 戊戌游草見示余讀之欣然曰得一詩 耿 兩 纂及施 然 用編 卷古 日得 口誠事 詩 武子注蘇詩極祗 年 工清而腴質 · 其實 詩人矣其詩不紀年而分體絕 以 两 卷余考古 山青花紅書屋詩六卷見 非古也誠 而雅近體無骩骸之音 人詩集如杜 軒編詩合平古 **示嘉王氏**孙門 如蘇

Ā

5

鄭 夢 夢白先生小谷 及先兄皆睿 余惟以甲 東瀛諸君子 見先生之政事文 詩必與本 白先生為吾 孫箴璽娶先生之從曾孫女則又與先生侍御為同年生論世講之誼先生固居丈 雅蓝 辰之 で集文や局上 主 田 秋一 口紀事畫引 於 鄉先達以牧令起家官至開府 種竹 **我鄙棄使** 軍軍 其家而余叉與先生猶子吟梅 見先生於武林 同入選中 無以測 他日 跋 档 矣 涯涘也乙未孟 以續選為請者誠 行館此後 豆豆 居丈人

先生 張 其引 之 曾 宮 君 廬 後 之 命 六十事 筠 從 道 圖不復 物 詔 鐙 為 光 孫 時 肖 高 Ż 圖 細 中 Z 矣 有嶮 克 作 斯 存而幸存 閒 已 夫 豪髮至 明等 固自 如治 虡 圖 府槽 者 夷事有 圖之存 應 河泊 圖 世 敘 其 當 自 宋典 引自 漕 時盡嘗刻於 幼 雖 防 谷 無 細 存 至老事蹟 固 無 海 湖舫燭綠迄 尺幅之存矣先 山 不 紀事 防 來盛事為 江以 備見於此 桂 論 各 林 及 寫 引 也宋皇 武陵 使 四 編讀 署 卷 图 引 而

**Ā** 

1

家者流陰陽家者流法家者流出於司徒之官至小說好者流陰陽家者流法家者流出於司徒之官至小說家者流路勝家者流法家者流名家者流墨家者流從 一做黎文章釋序 必原圖具在然後 齊孫子圖四卷魏公子圖十卷佚其圖存軒刻此畫引以行於世異時皆錄藝文亦 **圓並壽名山哉** 可與同時麟見山先生之鴻雪 世異時皆錄藝文亦 志

京宗乞為之序余受而讀之竊數其用力之勤與其考 章流別之作史稱其類聚區分辭理愜當為世所重而 章流別之作史稱其類聚區分辭理愜當為世所重而 為二類驅與反騷別立兩體則其書殆出依託非其舊 四十有二體而一一推其所始盡亦摯處任昉之遺意 也然其書則甚精審無如提要所譏者剞劂旣成寄以 一百 一一種其所始盡亦摯處任昉之遺意 一百 一一種其所始盡亦摯處任昉之遺意 一百 一一種其所於文章於是晉摯處有文 也君

陳之以效古 不鑿水其說 源出晉司馬彪續漢書 元傳英大 謂 孔某卒皆弟子所 較為有見 源 莫善於處箴 出 人者綦厚則凡意有未合 )則 漢 於 然 論 班 视 解解 蕱 明 固 陳 故 故作 多 擬 推 懋 作 續續之一 連 則 法言 仁 珠 也楊雄 固 州 其所出以為源於 山山為 也 箴 九半則曰五 史篇 至 擬之 源 艦 凶 於 經奠大 七九 出孟子姓子之 英 善 於 者亦不能 託 肈 體 獲 宜. 兩 始 一託始 古 觼 於 頡 是 2 但 恆

r

۱. •

則管 泰 釋 近 而 能 率 我 反三 其國變易舊章更用 有比臣七主篇可以 賀 七發何以不六九 旭 爾 那 是以枚乘七發室七而 平 爭 同 及之以補尊說所未備或亦喜節人之 八種文八種九 雄 文之國其聲教 詩 海 鈔序 西 上於 而求之東葢亦以同文之國 歌 是 何 我國 釋十 新 法發 相 以不八乎 亦從 止屈原 逦 而大 價 葢 禹 自强殷殷子 自 而效之士 唐 謨 九 歌 **秋皋其**實 九歌更可 來有 至九 與

樉 平以降文藝一 元 生生 惠 為 講 為宗 之 變 也 異先 學出 學 奉 者 國有 生 調 法 條 及 깷 少時住 奏とい詞 歴試通 徐 述 逍 而其 著 新舊 越 一者道 委之 釋 時 持 作 國 閒 大質 緇 当 盐 淨 亦 塑 羽 滤 圓 僧主之士 倡 流 稍 盛 寺 於 其 新 雖 氏 行 之 東京本願寺 講 國 旭 退院後以儒 濂 舊 國第 綫旣 大夫游於 洛之學 裕 先 生 然也 芸 而 逍 學教 者亦 五月 日本 知 道 則

人之 則 他 逍 形 數 非 加 也 道 而 欲以變法者兼變道敷嘗 百 肵 以 否惟念先生今年八十有五余今年八十有 卿 **下**者謂之器以形而 有所得 為備自堯舜至孔子而集大成漢朱 於此也苟慕其强亦學其藝而 人可謂盛矣嗚呼先生 形而 知 之講漢 也先 でもプラーがナー 卽 下者言之 貴國 生所著三條述義余未得見不知 學亦皆有得 如惺窩 則 惟泰西 上者言之則惟吾中 於 殆有見於道之不 **加蘿山之講宋學如** 私論之 此道者也不必舍 人為最精矣泰 形 已若日道在 而 儒者 上者 可 謂 國 變 西 M

詩鈔之首詩 徐養資宗 年 共勉之 及之人 太史輯 得其 傍詢故老 巡 恭 也 而 伯 文 誦 所 世 養 芬 不云 見 兩歲海 略同 徴文考獻 詠 潍 烈 賦 平 餘言 宗 稿 j 風 緺 旣 虺 陵禮 伯 自 丽 以 自 後 官 文 閲 蒐 加 成 敬以 晦鷄 輫 慰 順 天學 無過 亦 賦 老 鳴 諸公 政時進 可云備矣 杰 乾隆十 詩浩女 一願吾 風 馬 是 一九

基 不足 離 容 承 泛乎大 瀘 綱 澗 伯 執 一發之 潤 此 尚 色 宗 象 篇 祀 極 平 洪 聲 奄 也 Ц 腏 經 陵賦 餴 緯 調諧 洪 帝 其 葢 亦 誻 惟 合 唐 寂 乎 我 部耆定中原遂 敬 金 實爲千 寥 釆 短 石 國家交德 來 章 朝 詞 不速 古未 索 未 采炳 朱 灭 有 然意盡 法 也方 有之 開億 2 武 乎丹 發 傑 故事 祁 功 臺 党 作 盛 萬 今 青 超 前 戦宗 踰萬 山 华 젪 朝 謴 參 德 明 伯 鼤

望之 見之其子少介司馬余亦相識也今年春有嚴子甚 往來於公之西湖退省庵若兄妹然余兒婦輩 以公墨蹟長卷見示乃公與其先德蘭史 剛直公墨顗 直公篤於 光篤先 從之役再以 藻於後昔人云文體刷刷 變略東巡敬謁 集文六扇九 生第四女嫁李氏李故院人 風義以曾受高 跋 二篇 奏御宗伯激 無忝 生 清風於前 農 國 蓋 列載 而寓於 上之知

守 軍營中蓝 異其拳拳於 姓 紙字蹟潦草初疑公病中 昆弟之誼書中亦嘗及李氏事公於兩家恩義 年迄光緒十三年共十有六年書 州先生長女壻也書不署 公在粵固已病也稱太守為弟葢 2 嚴 素志無 **틇子湛實之哉余家藏剛直手書** 氏 地閉也 固不 次第標飾成冊俾子孫世守之 下於李 不流露 氏也而憂時感事之 作讀其語則循在廣東 言外公固百代偉 年以事實推之 凡十六通 於太守有 始

不

تر

才

以父老 四 四 四 姑 爲 行 節 圖 於 代其節孝 存先記 四適 者 也 新安汪氏 託謹識之不 為圖日 方氏 一其站 與 家人日 未 代 也 泥 四 先 敢忘弱疾刲臂以療之 未 兩 圖 姑 ,葬之 Ħ. 其 載 治歛其必二眾 同 說皆汪 爲 姑適許氏夫臨 而 姊 枢悉為営 也 夫亡遺孤殤馬 圖 日 姑 君 及姊皆 定執字允 知其 ]葬是 卒 執 適 節

為盛矣或謂六姑殉夫而 乙節死午謂之烈 勿失者也節之所在生死以之期於不失而已生守 **嗅而萬世不視者也而皆歸之時窮節見何嘗** 課 子亦能 氣穕然付流形時窮節乃見一 如嵇侍中 也也 觀其圖讀其所為說數日四節率於一 適程氏失亡 原節之名義起於古之符節使人持守 稟毋削不墜其家聲因附圖於一 烈亦節也不讀文信國正氣歌乎 如顔平原斯其人皆所謂斷脰决 辦燈狐成立承襲其先 死當謂之烈不當謂之節 一垂丹青其 姑 門可 所 之

分若垂之家乘則有不必盡拘者節有三 羅漢之舉盛舉也先是丙申之秋余游石屋洞於其 向書之日四節 緒辛丑西湖虎跑寺品照上人有募刻石屋洞五 從三可以三從一不可斯圖斯說請大書特書牽 刻石屋洞五百羅漢像啟 異視之乎在 小洞 量問何為 石刻乾坤洞三字入之則一 四最著者電文敏而 楽文六漏九 居 此日愛其幽僻耳余因周覺其旁 國家表揚風化自有節婦 |應兆李元陽林 僧在焉問何 而烈則 美

閘 亦 修甫 生 非 生之猶 巡 松 砾 띪 商於 生 森者: 之 照 功 附 卽 17 乃歎 為 庸 虎跑寺品照 子修甫孝 塑 建屋三 アン・ファイン・ゴイ 禪寺 目 此亦西 屋 力宏 廉書 間伸 明成 洞 盛 湖 化 水 開量居之今年春余 枚 間 乃 重修 乾坤 知開! 屋寺建於 勝地也因言於 雕淹 洞 讀邱文 11.11 量 垍 不見志 吳 雕 越 莊 榯

刻五百羅漢像 特象教不光抑亦名 屋 屋 洞 **洞廣築垣墉以定界** 天章照 舊刻一 修甫 羅 漢 五百 水五百商於余 水 羅漢本止 羅漢 撫 師利等輩 乃百 拓 余余 至杭 像 山 减 餘 坞 烕 八佛為說法證阿羅塔不按五百羅漢其說有 五百也據 者品照因謀刻之此 為 **人漫漶會其時** 色矣乃 将來修復大仁寺張 崩 誠 榛 阿闍 荒 將 乾 坤洞歸 有以常 有二 演

傫 婚 部 為 之否 塘 法, 此 晃 7 洲 說 州 五 僧 杭 少 百則 佛 山 ᆀ 四 頁 無 志 方 府 州 所 言 净慈 居 著 胡 手 而 弟 大 居 塑 天台 或 中寺 法 傅 寺五百 塑 雁 五 者 一尊者 蕩 成 授 也 有 百 迦 而 五 葉 净愁 羅漢 據傳 或 異 八 百 諧 五 僧 命十六大 百 矩羅與其徒 依 化去 百則 則始 燈 羅 居 一錄文 漢 天白 乃聖 像未 於宋 此 說 是 殏 阿羅 圖 知 問 羅 八 繒 紹

鉕 量 **願君子各發菩提心量** 洞 方烽火 駁 不可謂無緣故不避饒舌之嫌敬為集腋之請 當 更在朱時塑像之上余六年前偶 心乎惟買石刻工又 慝 が集るい神 則 聖賞長 像 而南 存矣 存矣品照發此願或諸無刻像塑像不能保其 輸王面錢助成 安堵無恙吾婚其腹佛地 Ų, 兆 也 須築立垣 雖 閩 不能保其 間 此舉其功 牆 佛菩

故吳中 虎阜之陽 那善堂林立而清節堂 毎歲以 及外省之青年節 在多有 族嘉慶中有諱道修字禮堂 出其家財創建 則能 領 而 埋之或有母若如子若女者 知 吳郡 仰 體 塾 婦孤苦 一份缺一 以 陳氏所 教 房屋數百椽收養 朝 數百 之女長嫁之 廷德 而未備 無依者衣之食之 創 建者尤 者性喜 乃度地 加惠 可謂 可風 窮 本城 於 施 進 閶 病 及

スプが

Ē

旭 挥 亂 而 復 繼 病。 當 之 밆 偵 瓤 卒, 道 陷 世 其子名 鉅 定復歸 而 諧 陳 陳 公 四 鄉 出 氏 堂屋 於臺 清 德 有 里 婦 基 警 節 同 避 承父志不 字子成者又奉 即遷 堂 司 坦 地 莲 毁 江 田 不使 於 畝荒蕪撒 屋泰興 助冀 朝 廷 日 庚申辛 失 邸 堂 挶 隃 肵

授命才多之 惟念 計 所定堂 尚書碑 其數 是堂設立以來幾 樂善好施 司事之 方兵亂之時隨陳 記冠於其首 氏之妹皆 百五十人 規 集刻 殷氏若石 友若 四 下速 字子 慷 而 編 闡 孤 建置本宋言之詳矣余又 氏若王氏若程氏若 及百年節婦貞女之得 求序於余受而讀之則有 成 照亭若韓君 赴義自投清流無 子入塾讀書得游庠序 君北遷者皆幸 79 將歷奉公牘及其 仰峯皆見危 ヨラ 而免 玷 邀 何

善鄉善述尚矣而此諸人亦卓卓可傳余故牽連而書縣關幽春秋之志也問善相告儒者之事也陳氏三代 以應子成之求弁為鳳石原記補所未備焉 其職 捐軀態云桂林 火集とと見し 無機术其弗信矣乎夫